

## ■「ちくま評論」解説 読解問題への過程

## 2 吉川浩満「社会問題としての倫理学」 著者の本『理不尽な進化』【467/Y7/1】

## ■目標

- 倫理学、功利主義といった言葉がどのような意味で使われているか、注意しよう
- 「何が言いたいのだろう」と自問しつつ読もう
- 主張を捉えた上で、自分の問いを持つよう

〈読む〉ことは、〈書く〉ことで初めて完成します。設問は、読み、書くための目印です。ここでは、設問に答えることを目指して、〈読む〉と〈書く〉がどのように連携するか、その過程をたどってみます。

解説には、二つのポイントがあります。①読む＝追跡の技法、②書く＝解答を作るための技法。たまたまそこだけは読めた、書けた、というのでは、違った文章や設問には応じきれません。国語にも、ある程度、一般的なやり方が存在します。繰り返し経験することで、自分のものにして下さい。

これまでに培った力を精一杯使って、答案の精度を上げましょう。精度が上がるとは何か。自分が自分の答案を読んで、「ああ、よくわかった」と言えること。誰に読んでもらっても、ひっかかることなく読み、理解してもらえらること。

精度の目盛りが100まであるとして、80くらいにはすぐになるでしょう。しかし、その先が勝負。その先へ1ポイントずつ進む力こそ、失われることのない言葉の根になる力となることでしょう。それを十代の終わりに身につけておくことは、なんとも喜ばしい。

## ■追跡

① 私にとって功利主義は優れたディストピア小説に似ている。【読解問題1】浅薄で、下品で、グロテスクでありながら、同時に深遠で、エレガントで、美しい。私は『すばらしい新世界』や『一九八四年』が描く世界を恐れながら愛するように、功利主義の思想世界を恐れながら愛している。

ディストピア小説、『すばらしい新世界』、『一九八四年』を知らなかったらわからない？ そんなことはない。ここで「負け」てはいけない。

「私は、功利主義の思想世界を恐れながら愛している」という一文さえ押さえておけばいい。で、大事なことは、ここで問いを抱いておくことだ。

「功利主義ってなんなん？」

「恐れながら愛している、って、どっちやねん？」

「功利主義を愛するとか恐れるとか、ようわからんな」

- 1/9 -

読みのスタートで大切なのは、まず、①書き手に沿うていこうとすること。「筆者さん、あなたは、功利主義の思想世界を恐れながら愛しているんですね」、次に、②問いを持つこと。「…で、その思想世界ってどんなものなんでしょう？」

この二つが読みの推進力を生む。目を背けたり、反発を感じたりしたままでは、読み進めない。逆に、よくわからないところを問いたただき感覚なしに、目だけで追っても、結局、途中で道に迷う。

## ●沿いつつ、問う。

テキスト（書き手）と対話しつつ進もう。

② 功利主義は、人はなにをなすべきかを探究する規範倫理学の一理論である。中心教義は、人びとの幸福を最大化するような選択を行うべしとする「功利の原理」だ。創始者のジェレミー・ベンタムは、正しい行為とは社会全体の幸福の総量を増やすものであり、不正な行為とは逆にそれを減らすものであると主張した。有名な「最大多数の最大幸福」である。

「ベンサム」という名前前で知っていた人もいるかも。功利主義とは、社会全体の幸福の総量を増やす行為が正しい／減らす行為は不正だ、という考え方だとまとめられる。

そもそも倫理学とは、「何が正しいか」「何が善か」「どちらを選ぶべきか」といった価値判断の根底を探ろうとする学問だ。（倫理学とは別やで）

自分が何かを行おうとしたとき、迷ったとき、「あ、やめとこ。おれは楽しいけど、その結果、社会全体に迷惑かけるかもしれないへんからな」と考える人がいたとしたら、その人は「多数の幸福」を「おれの幸福」より優先させたわけだ。

③ では、功利主義のどこが深遠で、エレガントで、美しいのか。功利主義の三大特徴がそれぞれに該当する。まず、帰結主義。行為の正しさを帰結のみから評価するこの原則は、動機や状況といった不確定要因を排除することで倫理学説としては例外的な理論的エレガンスをもたらしている。次に、幸福主義。想像を絶するほど多様で複雑な人間の行為や制度もつまるどころ幸福のためにあるというこの世界観には、壮大で深遠なものがある。そして、総和最大化。人びとの幸福が最大になるよう努めるこの理想には、外見の美しさではなく理念としての美しさ、いわば写真には写らない美しさがある。この基本理念に反対するのは難しいのではないだろうか。

三大特徴にきちんと線を引いて確認しよう。なんとなく、「深遠で、エレガントで、美しい」といついていたわけではないことがわかる。

④ ところが、見方を変えれば、これらの美点が反転する。功利主義のアイデアを説明するために、あるいは功利主義を批判するために用いられるトロッコ問題や臓器くじの思考

実験が好例だ。

⑤ 線路を走っているトロッコが制御不能になった。このままでは前方で作業中の五人が轢き殺されてしまう。しかし転轍機でトロッコの向きを切り換えれば、その先にいる一人の犠牲ですむ。あなたはトロッコの向きを切り換えるべきか？ 最大多数の最大幸福を目指す功利主義の回答は、切り換えるべき、というものだ。次のような派生問題もある。トロッコが制御不能になったことは変わらないが、あなたは線路の上の橋にいる。このままでは五人が死ぬが、すぐ近くにいた男を突き落とせば、男が死ぬ代わりにトロッコを止められる。あなたは男を突き落とすべきか？ これも回答は、突き落とすべき、というものだ。しかも、先の回答で切り換えるべきと答えたなら、この場合も躊躇してはならない。トロッコを分岐させることも、男を突き落とすことも、一人を死に追いやる代わりに五人を助けるといって等しいからだ。臓器くじの思考実験はさらに過激である。公正なくじで健康な人をランダムに一人選び、殺す。そしてその人の臓器をすべて取り出し、臓器移植が必要な人びとに配る。そうすれば一人の犠牲で多数の人びとが助かる。この臓器くじは善か？ というものだ。功利主義の回答はもちろん、然り、である。

多数が助かるなら、一人を殺してもよい。それが、功利主義なのか！ 特攻隊？ 賛成できる？ 確かに「美点が反転する」。

⑥ 功利主義の回答は、多くの**人びとの道徳的な直観に抵触することが知られている**。功利主義の理念に賛同しながら、それがもたらす帰結を受け入れたいと感じたとき、人は道徳的ジレンマ状況に陥る。そのとき功利主義は、**浅薄にも人間の多様で複雑な営みを功利の一点に還元し、下品にも他人の生命を都合よく手段化し、グロテスクにも全体社会のために個別の生命を犠牲に供する**ディストピア思想に映るだろう。

【読解問題1】「浅薄で、下品で、グロテスクでありながら、同時に深遠で、エレガントで、美しい」というのは、なぜか。

さて、ここで私たちは、「それってどういうこと？」と読み始めて立てた問い自体を設問として受け取る。そしてこの問いにはもう答えられる。

型を先に考えてみよう。  
★「なぜ〜どのように」のスキルを使うといい。なぜ、と訊かれているが、どういふことか、と問いをいったん変換する。(最後に「から。」に変える)

「功利主義は、浅薄で、下品で、グロテスクでありながら、同時に深遠で、エレガントで、美しい、とはどういうことか」

次のような型になるのは、当然だろう。  
型例「功利主義は、〜という点で浅薄で、他人の生命を都合よく手段化するという点で下品で、〜という点でグロテスクでありながら、同時に〜という点で深遠で、〜という点

でエレガントで、〜という点で美しい、〜ということ。」

本文の説明箇所を代入していくと、

【解答例1】「功利主義は、人間の多様で複雑な営みを功利の一点に還元する点で浅薄で、他人の生命を都合よく手段化するという点で下品で、全体社会のために個別の生命を犠牲に供する」といふ点でグロテスクでありながら、同時に、多様で複雑な人間の行為や制度もつまるところ幸福のためにあるという世界観を持つ点で深遠で、行為の正しさを帰結のみから評価する点でエレガントで、人びとの幸福が最大になるよう努めるといふ点で美しいから。」

二文にした例。

【解答例2】「功利主義は、人間の多様性を功利という点だけから考える浅薄さ、他人の生命を手段とする下品さ、全体のためには個々の命は犠牲にしたいというグロテスクさを持つ。しかし一方、あらゆる行為や制度は幸福のためという深遠さ、行為の正しさを帰結のみから評価するエレガントさ、そして、人びとの幸福が最大になるよう努めるといふ美しさも併せ持つから。」

もつと短く。

【解答例3】「功利主義は、功利という点しか見ない浅薄さ、他人の命を手段とする下品さ、全体のためには個人は犠牲にせよというグロテスクさを持つが、一方、あらゆる行為や制度の目的を幸福に置く深遠さ、正しさを帰結だけで評価するエレガントさ、そして、みんなの幸福を最大化しようとする美しさも併せ持つから。」

⑦ さて、私がいまさら功利主義について言挙げするのは、ほかでもない。我々には功利主義をどこまで受け入れる用意があるか、それが時代の要請によって現在あらためて問われていると感じるからだ。

問いが明示された。傍線部。

⑧ 功利主義への追い風は少なくとも三つある。

⑨ まず最初に、時代の気分というか流行がある。功利主義風の露悪的な弱者切り捨て論が、現実主義的な考慮の帰結としてもはやされる風潮である。多くは功利主義についての誤解にもとづくものだと思うが、長期化する経済の停滞や格差の拡大による中間層マジヨリティの衰弱によって生じた心の穴を埋める思想として、ある種の功利主義流のスタンスが呼び出されているのではないかというのが私の見立てだ。ちょっと床屋政談風の物言いになったが、それでも重要だと思ふので述べておく。

功利主義への追い風その1。弱者は切り捨てよ、という時代の気分。これは、やばい。でも、感じることもあるだろう。財政たいへんなんだから、生活保護をもっと絞れ、とか。生産性の低い人は社会のお荷物だ、とか。全体のためには弱者は犠牲になっても仕方がない、という「露悪」趣味に、筆者は功利主義の匂いを嗅ぎつけている。弱者は切り捨てよ、という人間は、自分は、「犠牲者」にはならないという前提なんだろうけど。

⑩ ふたつめに、最先端のサイエンスによる道徳の自然化がある。自然化とは、自然科学による解明という意味だ。認知諸科学の進展によって、人間の道徳判断のメカニズムが着々と明らかにされつつある。有力な仮説である二重過程理論によれば、人間の道徳判断にはファストな直観とスローな批判的思考のふたつのシステムがかかわっている。道徳的ジレンマ状況とは、いわば脳内で義務論的な直観と功利主義的な批判的思考が戦う状況である。どちらをとるべきかと考えた場合、義務論的直観は分が悪い。それは進化的に形成された自動過程にすぎないからだ。もしゆっくり選べるのなら批判的な吟味が可能な功利主義的思考が選ばれるだろう。道徳の自然化が進めば、それだけ義務論的直観から崇高さが剥ぎとられ、功利主義的思考のプレゼンスが上昇する道理である。

功利主義への追い風その2。科学が道徳を解明しつつあること。ここはしっかりと読まないと。「ファストな直観」対「スローな批判的思考」。どうということだろう。

危ない！ 助けなくちゃ！ こういう咄嗟の判断が、「義務論的直観」だろう。しかし、よく考えると、今自分が飛び込んで、二人とも犠牲になる可能性の方が高い。と、こう批判的に思考し直すのが、「功利主義的な批判的思考」かな。

科学が、直観的判断の方が劣ることを明らかにしていくと、「よく考える方がいい」（功利主義的思考）ということになる。

⑪ そして三つめは、テクノロジー環境の変化、とくに人工知能関連技術の発展である。たとえば、自律走行車が搭載する人工知能プログラムの仕様にかんして、いざというときに誰を犠牲にすべきかといった思考実験的議論が、さも当たり前のようにニュースを騒がせている。もともと功利計算による回答能力の高さを美点とする功利主義はテクノロジーとの相性がよい。

その3。AIの発展。功利主義は、テクノロジーとの相性がいい。つまり、ロボットは、功利主義的な判断をするってこと？ 全体のために、あなたは犠牲になってもいいです、なんてAIが勝手に判断したりする？

⑫ だが、功利主義と人工知能関連技術の組み合わせには、相性がよいという以上のものがある。私は考える。

⑬ 人工知能関連技術は、これまでその実現を阻んできた技術的な制約を徐々に取り払いつつある。その際に現れてくるのは、「なんのために？」というむきだし問いである。事故が避けられない状況になったとき、自律走行車に搭載された人工知能はどのような意思決定を下すのか。赤ちゃんと老人、ホームレスとドクター、一人の命と五人の命の、どちらを選ぶのか。倫理学で扱われるトロッコ問題とまったく同種の思考実験が、人工知能プログラムの開発において検討される。

⑭ これは、それまで技術的な制約のために考えずにすませてきたことを実際に考えるにしなければならなくなる事態である。自らが採用する道徳的原理をあらかじめ明示すること、もともと困難な問題、思わず「その場になってみないとわからないよ。」と答えたくならない問題にたいする回答を、開発室での思考実験によって事前に提出することが求められるのである。

人工知能に、どのような道徳的原理をプログラムするか。一人の命と五人の命の、どちらを選ぶのか、その判断を現実にはさせなくてはならない。小さいことから大きいことまで、自律するマシンはすべてどこかで、何を優先するか、という判断を自律的に行わなければならない。そのとき根拠となるのが、「何のために？」という問いへの答えだ。

⑮ タイトルに掲げた「社会問題としての倫理学」という言葉は、自律走行車の設計をどうするかという【読解問題2】社会的に大きな影響力をもつと思われる問題への取り組みが、トロッコ問題の思考実験のような倫理学的問題と短絡する事態を指している。もちろん、どんな技術にも道徳的、倫理的、規範的な側面があるものだが、ここで挙げた例では、プログラムの開発と道徳的原理の選択が直結しているのである。そのときプログラム開発の関係者たちは、さながら学会における倫理学者のように、功利主義、義務論、徳倫理という倫理学の三大勢力に分かれて論争を開始しなければならなくなるかもしれない。そしてその結論そのものがプログラムに実装されるのである。

【読解問題2】「社会的に大きな影響力をもつと思われる問題への取り組みが、トロッコ問題の思考実験のような倫理学的問題と短絡する」とはどのようなことか。

★傍線部延長術。前後に伸ばして「社会問題としての倫理学」という言葉は、自律走行車の設計をどうするかという社会的に大きな影響力をもつと思われる問題への取り組みが、トロッコ問題の思考実験のような倫理学的問題と短絡する事態を指している」ってどういうことなのか、という目で見ると。

★切り身の方法。A「自律走行車の設計をどうするかという」社会的に大きな影響力をもつと思われる問題への取り組み」とB「トロッコ問題の思考実験のような倫理学的問題」のふたつの箇所に分けて（切り身にして）、それぞれを言い換える。

もう一つ、この問いで重要なのは、「AがBと短絡（直結）する」ということは、（これ

まではなかったのに)今新たに生じている事態だという含意に気づくことだ。

本文の語句でいうなら、

「それまで技術的な制約のために考えずにすませてきたことを」「人工知能関連技術が、これまでその実現を阻んできた技術的な制約を徐々に取り払いつつある」ので、「実際に考えに入れなければならなくなる事態」になっているということだ。

Aは、自律走行車の例を受けているのだから、まずは、「事故が避けられない状況になったとき、自律走行車に搭載された人工知能にどのような意思決定をさせるのか」という、自律走行車が実際に市街を走るようになる時代の「社会問題」を指す。例から離れて一般化するなら、事故や事件が起きた／起きそうなとき、どのように意思決定するか、という(以前からある)社会問題である。

Bは、倫理学的問題を考えるために設定された、現実ではない架空の(でも、ありうる)問題である。思考実験は、理論の純粹さを保つために、条件は簡素化されている。現実の「事件」はもっと複雑で、関係する人物たちの背景や関係も多様に絡み合う。つまり、思考実験の問題は、(学問の世界の話であり)現実の社会問題とは次元が違う問題なのだ。(たとえていうなら、実験室で得られた理論(科学)と実際の技術(工学)の関係に似ている。科学と工学は(きょうだい)のようなところがあるけど、一見、AIと倫理って、結びつきそうにないよね)

しかし、その二つが「直結」する事態。

型例 Aという問題とBという問題が直結する、新たな事態になっているということ。

【解答例】事故や事件が起きたり、起きそうなとき、どのように意思決定するか、という社会問題が、自律走行車のプログラムなどが現実的な問題となり、倫理学的問題を考えるために設定される思考実験の結論と直接結びつく新たな事態になっているということ。

この問いには、「なぜこんな事態になっているのか」という問題意識が含まれている。結びつきそうにない二つが結びついていることを表現したい。後半は、「どの道徳的原理を選択するかについての結論」という語句を使う手もある。

A 現実的、社会的、実際の、実装 / B 原理的、実験的、理論的、思考

⑯ 論争に勝つ(試験をパスする)のはおそらく功利主義である。三派のなかで唯一、功利主義だけが、目的(「なんのために?」)への答え(功利、効用)を計算可能なものとして扱うことができるからである。

「三派」の内容について補足しておく。

ある人の行為について、

・功利主義の立場では幸福量が増大するかどうかから評価する

・義務論の立場では、特定の義務に基づいた行為かどうかから評価する  
・徳倫理の立場では、行為者が特定の徳を持つていたのかどうかから評価する  
これを見てもわかるように、「効用が計算可能」な感じがするのは、功利主義だけだということがわかるだろう。

功利主義と義務論は行為(する)を問題にする。徳倫理は、人そのもの(である)を問題にする。功利主義は幸(量)、義務論は、特定の義務を問題にする。それぞれ立場が異なっているが、相補い合っている面もある。

⑰ もちろん、それで万事解決ではない。こんどは功利主義内部での論争がはじまる。効用関数をどのように設定するかという問題が生じるからだ。快樂を基準とするのか選好充足を基準とするのか、行為を対象とするのか規則を対象とするのか、等々。それぞれどこか邪悪な用途にさえ利用することができる。かといって、効用計算を捨てて義務論や徳倫理へと向かったところで、もっと悲惨なことになる可能性がある。融通の利かない義務論的プログラムは不適切な動作を頻発させ、徳倫理的プログラムは融通を利かせようとしてフレーム問題を引き起こすだろう。

専門的な用語が連発しているが、正確なところはさておき(笑)、倫理学をプログラムに実装するには、いろいろ問題があるんやね、おさえとこか。

「フレーム問題」は、他でも話題になりそうなので、簡単にふれておく。  
やること限定されているAIではなく、いろいろな状況に対応できるAIは、目的に達する途中で世の中のありとあらゆることについて考える必要が生じてしまう。しかし、考えているうちに時間切れになる。これが「フレーム問題」。「徳倫理的プログラム」は、その人はいいか、と問うわけだから、いろんなことについて問う必要がある。

⑱ そういってわけで、【読解問題3】結局は功利主義に舞い戻らざるを得なくなる。これこそプログラムにあらかじめ組み込んでおける唯一の道徳的原理であろう。

⑲ 功利主義にかんする入門書や解説書を聞くと、功利主義は少数派であるとか、日本では評判がわるいといった慨嘆にしばしば出会う。それはそれで事実かもしれない。しかし学界における勢力図はどうであれ、何度目かの人工知能ブームと道徳の自然化と長期の経済停滞を経て、いまや世紀は功利主義のものとなりつつあるのではないかというのが私の見立てである。

筆者のいいたかったことは、問題はあるかもしれないが、時代が功利主義を求めている、ということだった。功利主義には、ネガティブな印象とポジティブな印象が両方ある、という話から始まったことと、最終段落は呼応している。

【読解問題3】「結局は功利主義に舞い戻らざるを得なくなる」といえるのはなぜか。

★「なぜ」という問いは、過程を問うている。どんな過程で「功利主義に舞い戻らざるを得なくなる」と結論づけられるのか、問い直すと解きやすくなる。

★傍線部を延長すると、「そういうわけで」とあるから、その指示内容をまとめればよいわけだ。結論は、⑩段落に書いてある。

「功利主義だけが、目的（「なんのために？」）への答え（功利、効用）を計算可能なものとして扱うことができるから」

あとは、他の選択肢が不適切であることを書けばいい。本文の語句を使った例と短くした例を示す。

【解答例1】倫理的原理をプログラムに実装するとき、融通の利かない義務論的プログラムは不適切な動作を頻発させ、徳倫理的プログラムは融通を利かせようとしてフレーム問題を引き起こすので、効用関数をどのように設定するかという問題はあるにせよ、効用を計算可能なものとして扱うことができる功利主義しか選択できないから。

【解答例2】プログラムに実装する倫理的原理を選ぶとき、義務論や徳倫理は、融通が利くか利かないか極端なためうまく動作しないので、効用を計算可能にする功利主義しか選べないから。

#### ■読解問題

- 1 「浅薄で、下品で、グロテスクでありながら、同時に深遠で、エレガントで、美しい」というのはなぜか。
- 2 「社会的に大きな影響力をもつと思われる問題への取り組みが、トロツコ問題の思考実験のような倫理学的問題と短絡する」とはどのようなことか。
- 3 「結局は功利主義に舞い戻らざるを得なくなる」といえるのはなぜか。

#### ■発展問題

●筆者は「功利主義風の露悪的な弱者切り捨て論が、現実主義的な考慮の帰結としてもてはやされる風潮」を「追い風」と表現していた。また、功利主義は「それどころか邪悪な用途にさえ利用することができる」とも言っていた。そういった面を持つ功利主義的原理が、AIに実装されることについて、どう考えるか。あなたの考えを述べなさい。

●重要語「倫理」 Ⅱ行動の規範、善悪の基準。どうすべきか、何がよいことか、といった価値の問題に関わる。例文「論理的には正しいが、倫理的には間違っている」。